

# 和田川の

# おそのの水道

平成九年七月五日号

昔の和田川は、水量が多い上に流れも速く、ところどころに深い淵ふちがありました。特に、現在の平家越え橋の下手には「おその水道」と呼ばれた深い淵があったと言われています。今回はこの淵に伝わるお話を紹介いたします。

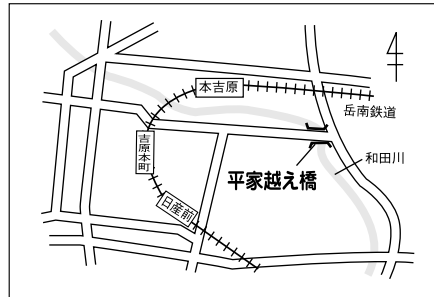
江戸時代のころの吉原宿は大変繁盛していました。

吉原宿には「おその」という名前の若くて人気のある芸者がいて、みんなにかわいがられていました。ところが、おそのはいつしか

体が弱くなり、働くことができなくなりました。すると主人は稼ぎがないと言って殴ったり、け飛ばしたりして毎日いじめていました。おそのは悲しくなると主人を恨みながら、このふちに身を投げて死んでしまったのです。

それから間もなく、おそのの幽霊が出るといううわさが広まり、夜遅くなると、ここを通る人がいなくなりました。

この淵は東海道の吉原宿の東の外れです。幽霊のうわさで吉原宿に人が来なくなつては困るし、第一おそのがかわいそうだという声が人々の中から起きました。



そこで、あるお寺のお坊さんがほこらを建てて「おその地藏」を祭り、お経を読んでおその霊を慰めました。すると幽霊は出てこなくなつたということです。

和田川の近くで生まれ育つた

佐野章吾さん（依田橋町）

私の父親は雑学のある人で、いろいろな話をしてくれたけど、残念ながらおそのさんの話は聞いたことがないし、おその地藏も見たくないですね。

でも、確かに平家越え橋の下手は川がカーブしていて、流れも急だったし、深さも水量もあつたから身投げをしたら死んでも不思議はない場所でした。川は私の遊び場でしたが、そこはあまり近づきたくない場所でしたね。それに、あのあたりは人家がほとんどなくて、夜になると寂しい場所だったから、幽霊が出

◀ 和田川



るなんてうわさを聞いたなら、本当に怖かつたと思います。

私が子どものころの和田川は、砂利船が行き来したり、水車小屋で精米をしたりしていました。よく水車小屋までお米を運ぶのを手伝つたものです。夏にはホタルも見られたんですよ。そのころのきれいな川が懐かしいですね。